

みなかみ町におけるツキノワグマ対策の取り組み

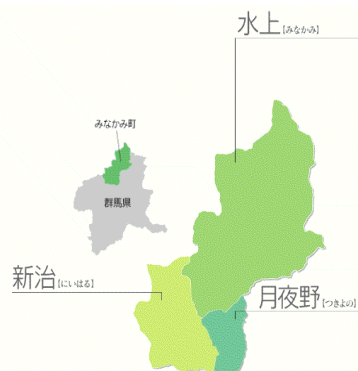
みなかみ町農政課 合沢 衛

1. みなかみ町の概要

当町は、群馬県の最北部、利根川の源流域に位置し「関東の水瓶」と称される自然と温泉の豊かな町です。

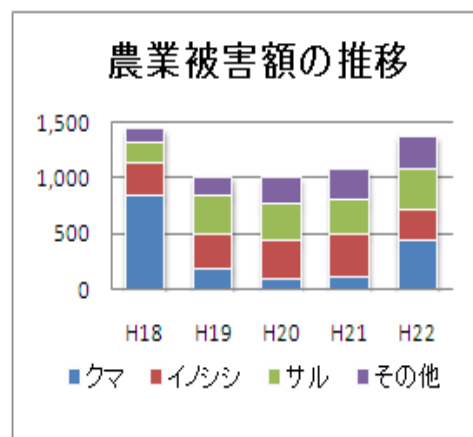
人口は平成22年4月1日2万2千人で減少傾向にあり、65歳以上の人口が3割を越え、少子高齢化が急速に進んでいます。

町の総面積781km²のうち約90%を山林原野が占めており、鳥獣被害を受けやすい地域となっています。



2. 有害鳥獣に対する取り組み

町では、平成20年に鳥獣被害防止計画策定により、有害鳥獣対策協議会を設立し、行政だけでなく農林業関係者、地元猟友会、地域の方々と共に、増加の一途をたどる有害鳥獣被害に対する様々な取り組みを行っております。



3. 鳥獣被害の現状

農作物の鳥獣被害額は近年1千万円を越え、イノシシ、ニホンザル(以下サル)の被害が約6割を占めています。ツキノワグマ(以下クマ)による被害は平年では全体の1割程度ですが、平成18年や今年的大量出没時には、平年の4~5倍にまで被害が増加する事もあります。

例年、町内におけるクマの出没は7月から10月頃で、農作物被害は飼料用と食用のトウモロコシ、果樹ではプラムと桃に多く発生し、主力果樹のリンゴには早稲種に被害が発生する程度で、主要な品種の「陽光」「ぐんま名月」「ふじ」はあまり被害に遭わない傾向があります。

4. 平成22年度ツキノワグマの状況

本年の傾向として、4月上旬には既に目撃情報が寄せられ、イノシシ罠の錯誤捕獲も多く発生したことから、平年より比較的早い時期に積極的に活動していたものと思われます。

【4月~7月】

この時期は親離れしたばかりの幼獣が、日中の明るい時間帯での目撃情報が多数寄せられました。出没場所が通学路や住宅地付近である場合が多く、立て看板や防災無線による出没情報提供を行い、複数回出没するといった場合にはやむを得ず檻による捕獲を試みましたが、檻の中のエサに興味が無いためなかなか捕獲することができませんでした。また、新治地区では小学校付近に5月上旬から頻繁に出没していたクマが7月下旬にやっと捕獲されるなど、比較的檻による捕獲が難しかった時期でした。

【8月~9月】

この時期になると、町内各地で民家近くの畑や果樹園、学校や通学路付近など急激に目撃例が増加した時期でした。

人身被害の危険がある場合には緊急で檻を設置し、小中学校にはクマに遭遇しないよう児童にクマ鈴の携帯を呼びかけるなどの対策を行い、教育委員会は目撃例の多い通学路にクマ避け用に一斗缶を利用した大型のクマ鐘を約100箇所設置しました。



【10月～11月】

例年この時期は出没が少なくなりますが、今年はエサ不足の影響で民家の庭先の柿やリンゴに多数の被害がありました。

特に柿は町内の集落内やその周辺を中心にいたる所にありますが、11月になると住宅街や商業地域の中にある柿にまで被害が及ぶようになりました。過去にクマの出没例がほとんどないような地域でも、あまり人目をおそれずに柿の実を食べているといった目撃例が頻発しており、それほどまでにクマが追い込まれていたものと思われます。

特に子連れのクマの目撃例が多く、狩猟期の11月15日を過ぎても出没が続いた状況です。

5. 平成22年度 取り組み

- ・情報の提供 ①看板の設置 延べ220枚 ②防災無線による注意喚起、出没情報周知
- ・出没地域のパトロール ①車でのパトロール ②花火による追い払い
- ・被害防止 ①捕獲檻の設置 延べ77回 ②電気柵の設置 2箇所
- ・その他 学校の対策 ①出没地域を通学する児童、生徒にクマ鈴貸与
②通学路にクマ鈴を設置 約100箇所 ③保護者による送迎

6. ツキノワグマ対策に関する基本的な考え方

町内のクマによる農作物被害はイノシシやサルと比較すると小規模なものであり、農作物被害の面から考えると多くの場合は積極的に捕獲や駆除の対象となるものではありません。しかし、クマの場合人身被害が想定されることから、イノシシやサルに対する被害防止対策とは少し違った見方や考え方が必要となります。

クマの被害にはハイキングや山林での作業中に襲われて負傷するといった直接的な被害だけでなく、近くに出没したクマを見て恐怖のあまり逃げようとした際に転倒して負傷するといった、間接的な被害も発生しています。

また、日常生活の中で常にクマに遭遇する可能性があるといった環境では地域住民が精神的な負担を負うことも考えられますので、農作物被害の防止はもちろんですが精神的な負担も含めた人身被害の防止についても対応しなければならないと考えています。



7. 課題

クマ対策での最大の問題点は、イノシシやサルのように明らかに個体数を増やし生息域を拡大しているものとは違い、山中の広葉樹の堅果類等の豊・凶作などの外的な環境に大きく左右され、出没件数に波があることが挙げられます。最近では、地域の住民も出没に過敏になっており、出没件数が増加すると捕獲の要望も増加し、実際に出没地域に生活している住民にとってクマに遭遇することはとても危険であり早急な対応が必要になります。

町では住民の危険や不安を取り除く事を第一に考えてクマ対策を行っていますが、捕獲に頼るだけでなくクマの出にくい環境整備も同時に行う必要があります。林縁部の刈り払いや森林整備事業などの短期的な課題から耕作放棄地解消や針葉樹林から広葉樹林への樹種転換などの長期的な課題にも対応を迫られています。

住民の身体財産を守る事が最優先となることは間違いありませんが、同時に自然の豊かさも守っていくといった環境整備が今後の町の課題となります。